

体験型海外教育実地研究 第5学年 異文化理解

「Let's compare Japanese Heroes and American Heroes」

教育学研究科 科学文化教育学専攻 社会認識教育学専修 瀬戸 康輝

1 はじめに

国際化が進む現代の流れにおいては日本も例外ではなく、従来国外の場であった異文化交流が日本国内においてもみられるようになってきた。そのため異文化を持つ人々との共生、多文化共生が現代社会の重要な課題となっている。こうした問題意識から多文化共生の実現にむけた教育の在り方を研究テーマに設定しているものの、自身は海外に渡航経験もなく、異文化との交流をしたことがなかった。

そのため日本よりもはるかに多文化化が進んでいるアメリカに赴き、現地の学校を見学する体験型海外教育実地研究においては、多文化共生の在り方やその実現に向けた教育についての示唆を多分に得られると思ひ、大変興味を持った。さらに現地の学校で授業実践の機会も与えられており、自身の考える多文化共生の実現にむけて必要なことを現地の子どもたちに伝えたいとの思いから、本研修に参加するに至った。

2 実地研究の日程と概要

月日	曜	交通等	訪問地・要務等	宿泊地
4/26	木	渡航までの日程確認 パスポート確認 ESTA・保険の確認 授業研究テーマの設定方法 部屋割り確認		
5/13	日	ECU タッカー先生・学生の案内 平和公園・宮島		
5/18	金	授業研究テーマ案の交流		
6/7	木	学習指導案の検討		
7/2	月	学習指導案（英語版）の検討		
7/7	土	第8回学校間交流国際フォーラム		
7/8	日	2012 体験型海外教育実地研究授業研究ワークショップ 学習指導案の検討および教材・教具の作成（渡航のための諸手続き）		
8/2	木	保険説明、学習指導案の検討および提出について		
8/30	木	指導案・授業の準備状況確認、報告書・教材集原稿および発表会について、 渡航関係書類一式配布、渡航準備、書類（事務提出書類）提出		
9/11	火	報告書・教材集原稿およびアンケートについて、授業準備状況確認、 準備物・集合時間等再確認、渡航についての質問等		
9/15	土	広島→成田 0745-0925 (NH3112) 成田→ワシントンダラス 1105-1040 (NH002) ワシントンダラス→ローリー 1245-1347 (NH7144) 空港→City Hotel & Bistro (ウォーレン先生による送迎)		アメリカ ノースカロライナ州 <u>City Hotel & Bistro</u> 203W.Greenville Blvd ,Greenville, NC 27834 TEL:877-271-2616

9/16	日	徒歩	授業準備, 市内観光 夕食会 (学部長先生宅)	Greenville 同上
9/17	月	City Hotel→Wahl-Coates E.S (ウォーレン先生による送迎)	学校訪問 (Wahl-Coates E.S) ・校内見学, 授業見学 ・授業実践 (瀬戸) 夕食会 (レッドフォード 先生宅)	Greenville 同上
9/18	火	City Hotel→Wahl-Coates E.S →East Carolina University (ウォーレン先生による送迎)	学校訪問 (Wahl-Coates E.S) ・校内見学, 授業見学 ・授業実践 (佛崎) ECU 訪問 ・構内 (図書館) 見学 ・大学院授業への参加, 院生との交流 夕食会 (ECU フットボ ール場)	Greenville 同上
9/19	水	City Hotel→St. Peter's Catholic School→Clarion State Capital (ウォーレン先生による送迎)	学校訪問 St. Peter's Catholic School ・校内見学, 授業見学 午後 ローリーへ移動 ・市内観光, 自然史博物館見学	Raleigh <u>Clarion State Capital</u> 320 Hillsborough St, Raleigh, NC TEL:919-832-0501
9/20	木	Clarion State Capital→Exploris M.S (徒歩)	学校訪問 Exploris M.S ・校内見学, 授業見学 市内観光 夕食会 (校長先生)	Raleigh 同上
9/21	金	Hotel→RDU (タクシー) ローリー→ワシントンダラス 1017-1124 (UA6166) ワシントンダラス→Hotel (タクシー)	ワシントンへ移動 アメリカ文化体験 ペンタゴンモール観光	Washington, DC Washington Plaza 10 Thomas Circle, N.W., Washington, DC 20005-4176 TEL:202-842-1300
9/22	土	Hotel→ワシントン市街 (徒歩+地下鉄)	アメリカ文化体験 スミソニアン博物館 ニュージウム見学	Washington, DC 同上
9/23 9/24	日 月	Hotel→ワシントンダラス (タクシー) ワシントンダラス→成田 1223-1515 (NH-) 成田→広島 1630-1805 (NH-3111)		

3 実地研究授業

3.1 単元名 第5学年 異文化理解「Let's compare Japanese Heroes and American Heroes」

3.2 事前準備

①単元設定の理由

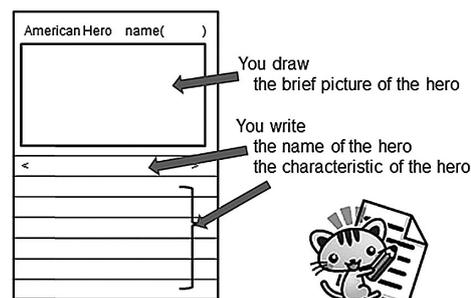
現在、日本のマンガやアニメなどの文化が世界中で人気を博している。アメリカにおいても日本のマンガやアニメは非常に人気が高いと思われる。その人気の理由について考えると、それは日本のアニメーション技術の高さや、日本の忍者、サムライといった日本文化を伝える要素があるといった面だけでなく、マンガやアニメに登場する主人公、ヒーローの勇気や正義、努力といった感情・行動に共感できる面があるからではないかと考えた。

単に日本の文化を紹介するだけでは異文化理解にとどまり多文化共生にはならない。異文化との差異性ととも、日本とアメリカで共通する感情・価値観といった普遍性を伝えることが重要である。ヒーローとは人々の正義感や平和への願いを体現した姿であり、日米のヒーローを比較し、その共通点を見出すことで、国境を超えた正義感や平和への願いを子どもたちに伝えることができると考え、本単元を設定した。

②準備物とその意図

私は海外の渡航経験もなく、実際に英語を使って人とコミュニケーションをとったことがなく、自身の英語力にかなりの不安を感じていた。そのため視覚教材を多く取り入れることで、視覚的に子どもたちに伝える工夫をする必要があった。そこで今回は、実践校である Wahl-Coates E.S.に電子黒板があるとの情報から、パワーポイントを利用することにした。これにより、日米のヒーローについて視覚的に子どもたちに伝えることができ、さらに授業における子どもたちへの発問・活動の指示も円滑に行うことができると考えた。

SAMPLE



3.3 学習指導案

Lesson Title : Let's Compare Japanese Heroes and American Heroes !

Date : September 2012

Grade I would like to teach : 5th Grade

Subject : Culture

Description : In this class, students compare Japanese Heroes and American Heroes, and learn universality as well as difference of the culture between Japan and America.

Objectives : As the result of the activity, students will be able to

1. Learn about Japanese Heroes and American Heroes.
2. Notice that there are some similarities between Japanese Heroes and American Heroes.

Materials, Resources and Technology :

- ・ PC
- ・ projector
- ・ work-sheet

Procedure :

Students' activity	Teacher's activity	Materials
0. Greeting	0. Introduce myself and tell them what they will learn in this class.	
1. Learn about Japanese Heroes.	1. Show pictures about Japanese Heroes and introduce Japanese Heroes.	Pictures Projector, PC
2. Introduce the features of American Heroes. <ul style="list-style-type: none"> • Write it at a work-sheet • Present it by reading a work-sheet 	2. Show pictures about American Heroes and introduce representative American Heroes.	Pictures Projector, PC
3. Compare Japanese Heroes and American Heroes.	3. Explain similarity between Japanese Heroes and American Heroes	Projector, PC

3.4 授業の実際

授業前日に授業時間が 30 分しかとれないことがわかり、急遽、授業の内容を一部省略して授業を行った。まず簡単な自己紹介を行い、今回の授業のテーマを説明した。そのなかで今回取り上げるヒーローを映画やマンガ、アニメーションに限定することを説明した。

次に日本のヒーローを、パワーポイントを使ってその特徴とともに紹介した。日本のヒーローは想定していたよりもアメリカで知られており、生徒もパワーポイントで表示されたヒーローの画像をみて教師が言う前にヒーローの名前を大きな声で言うなど、良い反応を示していたため、紹介は円滑に進めることができた。

そして、生徒たちにアメリカのヒーローを紹介してもらうために、ワークシートを配布した。アクティビティの内容やワークシートの記入事項はパワーポイントを使うことで、生徒たちに的確に伝えることができた。学級には特別支援が必要な生徒もいたが担任の先生の協力もあり、作業の意図を伝えることができた。生徒たちは予想以上にワークシート記入作業に熱心に取り組み、自発的に教室にあるパソコンを使ってヒーローを検索する生徒も見られた。しかし、この作業に予定していたよりもかなりの時間を費やしてしまった。その後、何人かの生徒を指名し、自分が書いたワークシートをもとにヒーロー紹介のプレゼンテーションを行ってもらった。

最後に、日本とアメリカのヒーローを比較し、その共通点を見出す場面では、「ヒーローの共



通点は何か」と問いかけ、その生徒の答えから「ヒーローは特別な力を持つ存在である」という具体的事実から、「ヒーローが何のためにその力を使っているのか」という問いかけにより、「ヒーローが人々を守るために特別な力を使っている」ことに気付かせ、日本とアメリカに共通のヒーロー像、つまり正義感や平和への願いの国境を超えた普遍性を理解させる流れを計画していたが、時間的余裕がなくなり、子どもとのやりとりではなく教師の一方向的な説明に終始する形となってしまった。しかし説明した内容については理解していたように思う。

3.5 考察

マンガやアニメのヒーローを題材にすること自体は生徒の興味・関心を引き付ける点では非常に有効であったと思う。そしてパワーポイントの活用により授業全体はスムーズに展開し、伝えたい内容もある程度は伝えることができたように思う。しかし、自身の英語力のなさの不安から、パワーポイントに頼りすぎてしまい、生徒との授業の中での交流ができなかったことが本実践を終えて最も後悔した点である。もちろん、授業時間が30分しかなく、授業後半の生徒とのやり取りに時間をさけなかったことも要因ではあったが、生徒と交流する場面が授業の中にあまり設定していなかったことが大きな課題であった。本実践において最もキーとなる「日本とアメリカのヒーローを比較すること」を中心にして、生徒との交流にもっと力点を置いた授業展開を行う必要があったように思う。

4 教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

諸外国の教育については文献資料からでは、カリキュラムなどの制度面でしか知ることができず、実際の現場でどのような授業が行われているのか、ということについて大変興味を持っていた。自身の専門が中等教育であり、授業実践や主に見学させていただいたが学校は初等教育であったため、日本とアメリカで単純に比較できるものではなかった。それでも、自身が大きく注目した点は、学校や大学による教師の支援体制の充実ぶりである。学校には教室ごとにスマートボード（電子黒板）が設置されており、教師は単なるプロジェクターとしてだけでなく、教科ごと、学年段階ごとに開発されていると思われるソフトを使いながら、授業にスマートボードを活用していた。また、教師用の教材道具を専門に販売している店が多数あること、大学図書館に大量の教材資料を保管し、教師自身が教材開発を行うことができる設備まであるなど、教師が授業をするうえで様々な面から支援されていることを知った。

今回の研修で最も印象に残ったものが、ローリーでの Exploris M. S. への学校訪問である。この時、学校を案内してもらったのは、教師ではなく生徒たちであった。彼らは、学校を案内しながら自分たちがどのような授業を受けているのか、またそこにはどのような意図があるのかを説明していた。自分たちが学んでいることを他者に説明できることは、ただ受動的に授業をうけているだけでは身につかないものであり、授業の意図を理解し、能動的に授業に取り組む生徒たちの姿に非常に感銘を受けた。こうしたアカウンタビリティは教師が授業を行う上でも重要であるが、授業を受ける生徒たちにも認識されるべきであると感じた。

4.2 自分自身についての変容

今回の研修で、自分の英語力のなさを痛感することになった。英語論文の読解や、日本人の

話す英語を聞き取ること、自分の思ったことを伝えるなどはそこまで問題にはならなかったが、英語圏の人が話すネイティブな英語をほとんど聞き取ることができないことにとっても歯がゆい思いをした。向こうの人々の助けもあり、自分の伝えたいことは少なからず伝えることができたにもかかわらず、積極的に話しかけてくれる人々、生徒たちに返答することができない、意図をくみ取ってやれない場面が多々あった。自分ができるコミュニケーションが極めて一方的なものであることを痛感させられ、とても悔しい思いをすることになった。言語の壁がある中でもコミュニケーションを行うことができたことには大変大きな喜びを感じることができたが、それをもっと深めることができなかった悔しさをかみしめ、語学の勉強に励み、双方向的なコミュニケーションがとれるように努力したいと思う。

4.3 グローバルマインドに関する変容

今回の体験型海外実地研究の参加は、自身の初の海外渡航ということもあり、学校、博物館、商業施設などを訪れるなかで、様々な面で日本との文化の違いを感じた。しかし、文化の違いとともに、ちょっとした気遣いなどにみられる日本と全く変わらない行動も見ることができた。文化の差異性だけでなく、文化の普遍性について伝えることが実地した授業の目標であったが、それを今回の研修で実感することができたことを非常にうれしく思った。

人種のるつぼとよばれるほど多様な民族が暮らしているアメリカにおいて、どのように多文化の共生がなされているのかを知ることが今回の研修参加の動機の一つであった。実際に様々な場面で、多様な民族が同じ場にいることを目にし、アメリカの多民族ぶりを実感した。しかし、訪問した学校では公立校では黒人が、私立校では白人の割合が大きいなど、アメリカが抱える多文化共生の問題も見ることができた。多文化共生には文化の差異性だけでなく普遍性を伝えることが欠かせないが、それだけでは実現できない。今回の研修への参加で、多文化共生が抱える様々な問題に目を向け、それらの解決にむけた政策を考えるなど、より社会制度的な面で多文化共生について考えることができるようになった。また、白人、黒人など人種の違いに関わらず子どもたちがともに遊び、学ぶ姿をみてとても小さくはあるが多文化共生を垣間見ることができ、自身の研究に対して、渡航前よりもいっそう意欲がわいたように思う。

5 おわりに

初の海外渡航ですばらしい体験を得ることができ、この研修への参加は自身の人生にとって非常に有意義なものとなった。今回の研修が非常に有意義なものとなったのも、渡航までの指導案検討などの準備から、現地に赴いてからのサポートもしていただいた小原先生をはじめとした GPSC の諸先生方、アメリカで私たちを快く迎えてくださり、授業実践・学校観察など様々な面で支えてくださった現地の諸先生方、特に現地での移動やレセプションパーティの企画など多くの面でサポートしていただいた ECU のウォーレン先生に心より感謝申し上げます。

この研修で学んだことを、今後の人生のなかで少しでも多くの人たち、今後指導するであろう未来の教え子たちに伝えることで、ささやかな恩返しとさせていただきたい。

